

2022年度「現代と法」
『いま、法学を知りたい君へ——世界をひろげる13講』



法学部では、駒場キャンパスの1年生と2年生を対象として、「現代と法」という講義を開講しています。詳細につきましては、『法学部入学案内2024』の12頁をご覧ください。

2021年度の「現代と法」は、東京大学法学部「現代と法」委員会の編集に基づき、『まだ、法学を知らない君へ——未来をひらく13講』という書名で、2022年6月に有斐閣から出版されています（定価1,980円（本体1,800円））。

このたび、2022年度の「現代の法」が、上記の書籍の続編として、東京大学法学部「現代と法」委員会の編集に基づき、『いま、法学を知りたい君へ——世界をひろげる13講』という書名で、2024年9月に有斐閣から出版されることとなりました（予価1,980円（本体1,800円））。

その内容は、次のものを予定しています。「法学」は、普段ニュースで目にするさまざまな社会問題について、どのような観点から対処し、また、対処しようとしているのか。各法分野の教員が、分かりやすく解説します。

中谷和弘「ロシアのウクライナ侵略と国際法」
巽 智彦「法を通じて世界を見る」
穴戸常寿「国会のオンライン審議は可能か」
成瀬 剛「18歳、19歳の者は大人か？ 子どもか？」
笠木映里「多様化する働き方と社会法」
齋藤哲志「母子関係の比較法——外国法の参照は無意味か？」
松井智予「会社はSDGsのために存在するのか？」

田村善之「なぜデッド・コピー酷似的模倣を禁止しなければいけないのか？」
藤田友敬「自動運転と法・その1——総論」
後藤 元「自動運転と法・その2——自動運転車による交通事故と民事責任・刑事責任」
Simon Vande Walle「大きいことは悪なのか？ 競争法は巨大企業にどう対処するか」
増井良啓「租税競争をくいとめる」
白石忠志「競争法の国際的適用」